

Chuo University

# FLP

Faculty-Linkage Program

## ファカルティリンケージ・プログラム2025

### 学部の垣根を越えた、刺激的な学びの場

FLP(ファカルティリンケージ・プログラム Faculty-Linkage Program)は、幅広い学問領域をもつ総合大学のメリットを活かした教育プログラムです。各学部で設置された授業科目をピックアップして、5つのプログラムを設定。所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を越えて設けられたプログラムを体系的に学修することで、複数の専門知識をもった学際的な視点を身につけることができます。



### ■ 新たな知識領域を広げる5つのプログラム

主専攻の学びにプラスして、他分野の高度な専門知識や能力を身につけられるFLPは、中央大学のどの学部の学生でも履修することができます。他学部の学生と一緒に学ぶため、知的な刺激が生まれ、ゼミの仲間たちとの交流を通して、視野や人間関係が広がるのもFLPならではの魅力。以下のような5つのプログラムを設置し、学生の知的興味や好奇心に応えています。

#### 01 環境・社会・ガバナンスプログラム

環境問題を複数の視点から学び、自然と調和しながら社会活動を継続させるために必要な取り組みについて考え、よりよい解決策を提起できる能力を養います。

#### 02 メディア・ジャーナリズムプログラム

記者、ディレクター・プロデューサー、アナウンサー、編集者、コンテンツ・クリエイターなど、さまざまなメディアの世界で活躍できる人材を育成します。

#### 03 国際協力プログラム

開発途上国の諸問題を、経済開発、社会開発(教育、保健・衛生、ジェンダー等)、環境、国際協力などの多角的な視点から総合的に研究し、格差・貧困問題の解決に貢献できる能力を養います。

#### 04 スポーツ・健康科学プログラム

スポーツを健康、医療、文化、ビジネス、サービス、行政などとの関連の中で多面的に理解し、幅広い分野でスポーツの発展に寄与できる能力を養います。

#### 05 地域・公共マネジメントプログラム

さまざまな課題を抱える地方自治体の要望に応えられるよう、専門的な知識やスキルを修得。地域社会で、課題解決の政策形成を担える能力を養います。

### ■ ゼミ形式の学び + 実践的なフィールドワークの学び

FLPの学びの中心となる「演習科目」では、少人数のゼミナール形式で研究を行います。興味のあるテーマの調査・研究を自主的に進めながら、ゼミの仲間とディスカッションをしたり、見学調査や実態調査などのフィールドワークも行います。

### ■ 卒業単位として認定されるFLPの修得単位

プログラムで修得した講義科目(プログラムによって10~20単位)と演習科目(12単位)の単位は、原則として全て所属学部の単位(卒業単位として認定)になるので、所属学部の学修と両立して無理なく知識を深めることができます。

## 環境・社会・ガバナンスプログラム



### 自然科学と社会科学の視点から環境問題の解決策を探る。

持続可能な社会づくりに必要な知識や能力を身につけるために、人間と環境の調和がどのように図れるかを自然科学と社会科学の両面から探るべく、生態系の構造や機能について調べたり、環境評価や環境に関する合意形成や意思決定について学んだりします。各分野の理論や研究手法の学びに加えて、現地調査や現場で活躍する国内外の実践者との交流を重視しており、企業、行政、民間団体など様々な立場で環境問題の解決に貢献できる人材を育てます。

#### 2025年度の演習A 開講テーマ例

環境政策を提言する／環境水の保全と対策

#### 将来の進路

国家公務員・地方公務員をはじめ、建設、運輸、旅行、金融・保険、新聞・放送、メーカーや大学院進学などの進路実績があります。

## メディア・ジャーナリズムプログラム



### デジタル時代のジャーナリストを育てる！

本学は長谷川如是閑や杉村楚人冠をはじめ、日本のジャーナリズム史に残る著名人を多数輩出しています。この伝統を継承し、さらなるジャーナリズムの発展に貢献するために開設されたのが、本プログラムです。演習は、実際のマスコミ業界において、新聞記者、放送局報道ディレクター、ドラマ・プロデューサー、アナウンサーなどを務めた実務経験者等が担当します。すでに、20年の歴史をもつ本プログラムからは、130人を超える人材をNHKをはじめとするマスメディア業界に送り出しています。

#### 2025年度の演習A 開講テーマ例

メディア・ジャーナリズム・ICTの法と倫理／ドキュメンタリー制作およびノンフィクション執筆の実践／“パブリックスピーキング”のスキルと社会を切り取る「視点」を身につける／新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解すると同時に、事実を正確に伝える文章力を身につける／映像リテラシー・ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー・自分のメッセージ（ドラマ制作）・映像とAI・コミュニケーション力

#### 将来の進路

新聞・放送・出版・広告などのマスメディアのほか、通信、印刷、運輸、メーカー、公務員、大学院進学などの進路実績があります。



## 途上国の開発や格差・貧困に 関連する問題の解決法を探る。

開発途上諸国では、さまざまな面で格差が大きく、多くの人が現在も貧困にあえいでいます。本プログラムは、格差是正、貧困削減に貢献する人材の育成を目指して開設されました。「経済開発」「社会開発」「国際協力」といった視点から、途上国の開発などについて総合的に研究するとともに、その過程で、語学力や異文化コミュニケーション能力も養います。演習科目では、アジアの途上諸国を対象にして現地調査も実施しています。

### 2025年度の演習A 開講テーマ例

表面から内面へのまなごしの涵養－国際協力の文脈における「ことばの教育」の視点から／発展途上国の格差・貧困問題と経済・社会開発：学際的・現場重視型アプローチ／企業・産業の国際比較～グローバル思考養成のために／〈ひとのつながりの新たなかたち〉を構想する惑星社会のフィールドワーク／開発社会学を通して東南アジアを捉える／変わりゆく世界と新たな国際協力のありかた／日本のODAから地方創生への環流：実務的アプローチ

### 将来の進路

国連やJICAといった途上国開発関連の機関をはじめ、JICA海外協力隊、国際協力NGOs、商社、メーカー、金融機関、コンサルタント会社（開発、経営）、放送・新聞業界、国家公務員（外務省含む）、教員、国内外の開発系大学院進学などへの進路実績があります。



## スポーツで社会を変える 人材の育成をめざす。

スポーツは今、健康、医療、ビジネス、エンタメ、行政など、無限の可能性を秘めています。このプログラムでは、スポーツを多面的に学び、未来の可能性を切り開くためのスキルを身につけることができます。例えば、スポーツとウェルネスを組み合わせた新しい提案や、スポーツビジネスの発展を支える知識の習得など、あなたの興味や情熱を活かした学びがきっと見つかります。スポーツの価値を新しい形で社会に届けるための道を探しながら、未来をデザインするリーダーとしての第一歩を、一緒に踏み出しませんか？

### 2025年度の演習A 開講テーマ例

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る／日本における競技スポーツ文化を考える／剣道を通じたビジネスおよび海外文化の理解／パフォーマンスの測定・分析／スポーツを通じた国際協力の理論と実践／スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

### 将来の進路

スポーツ産業界（Jリーグ、球団、スポーツメーカー、広告代理店、介護ビジネス）をはじめ、各スポーツ機関（日本アンチドーピング機構、日本陸上競技連盟など）、行政機関（自治体職員）や教育機関（大学職員等）、大学院への進学など、多様な進路実績があります。



## 地域の課題を直視し、ニーズに応え、豊かな暮らしを構想する。

地域・公共マネジメントプログラムでは自治体行政や地域での取り組みをテーマとしています。それは、地域こそが問題が生起し、解決策が届けられるべき場であるからです。プログラムでは、子育て・教育、福祉、人権、治安、経済、財政といった幅広いトピックを取り上げ、学際的な学びを活かす姿勢を確立しその方法論を考えます。公務員のキャリアにとって、いずれかの地域で事業を展開するうえで、また、いずれかの地域の住民として生活するうえで、大切な学びとなるものです。

### 2025年度の演習A 開講テーマ例

地域資源を活かした地域経営を考える：そのための地域資源の再発見・再評価、マネジメント／地域創生のデザインと地域イノベーション／地域活性化の源泉を探る／現代日本社会において人びとが生きていく場所としての地域を考える／地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワークと子どもたちが「生きやすい」コミュニティづくり／地域計画のための分析手法／スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究／「大学は社会のために何ができるか」を考える

### 将来の進路

多くの国家公務員・地方公務員をはじめ、電気、建設、不動産、金融・保険や大学院進学などの進路実績があります。

## 履修生 Interview



### FLP で学んだスポーツの可能性と実践力

#### スポーツ・健康科学プログラム

総合政策学部 政策科学科 4年（2025年1月現在）

半林 誠 HANBAYASHI Makoto

私はスポーツ・健康科学プログラムの小林勉ゼミに所属し、スポーツを活用した地域課題の解決手法を実践的に学びました。

特に印象に残っているのは、3年次に約1年間かけて取り組んだ、地方のJリーグクラブとの地域活性化を目指した共同プロジェクトです。この活動では、少子高齢化をはじめとする地域課題に対して、クラブと連携し、解決の一助となるイベントを自分たちで企画・実施しました。過去の事例や学術的な根拠を基に企画を考えるだけでなく、実現可能性を考慮しなければならなかった点は困難を伴いましたが、ゼミ生全員で協力し合い、乗り越えた経験は非常に貴重なものとなりました。

本活動を通じて、スポーツが持つ地域社会への可能性を実感すると同時に、その魅力を多くの人に伝えたいという思いから、テレビ局への就職を決意しました。FLPで培った経験を活かし、報道を通じて社会に貢献できるよう努めてまいります。

### ■履修時の注意

プログラムは、新規開講・廃止することがあります。1年次後期に選考試験を行い、2年次からプログラムが開始します。FLPにて開講されている全プログラムには定員があり、希望者全員が履修できるわけではありません。演習科目をはじめとするプログラム修了に必要な科目の多くは、多摩キャンパスで開講しています。

### ■お問い合わせ

全学連携教育機構事務室（多摩キャンパス5号館ペデ下）  
TEL:042-674-3663  
WEB:<https://www.chuo-u.ac.jp/gp/flp/>



詳細はこちら